

第1学年 国語科学習指導案

国語科研究室

1 単元名 みんなでよもう 「大きなかぶ」

2 指導観

○ 本学級の児童の実態

本学級の児童は、1学期にすべての平仮名の学習を終え、平仮名で書かれた簡単な文章を自分で読むことがほぼできるようになってきている。2学期を迎え「本を読むのが好き」と感じている子どもは、26人中20人に達している。また、図書室で本を借りたり、週2回の朝の読書タイムを楽しみにしたりしている子どもも多く、読書への関心は日々高まってきているところである。

国語科の学習においては、1学期に「はなのみち」と「おむすびころりん」の2つの物語文に出会っている。「はなのみち」では、挿絵から読み取ったことを文章とつなぎ、場面の様子について想像を広げながら楽しく物語を読んできた。また「おむすびころりん」では、声に出して読み、言葉の響きやリズムを楽しみながら、動作化や挿絵の読み取りをもとに、場面の様子を豊かに想像し昔話を読む楽しさを味わってきた。入門期から1年生としての中核の時期を迎える児童にとって、叙述に着目して事柄の順序をとらえたり、挿絵の読みと叙述をつないで人物の気持ちを想像したりすることができるような読み方の基礎・基本を、本単元で、確かに身に付けさせることが課題である。

○ 本教材の価値

本教材「大きなかぶ」は、おじいさんが心を込めて育てた大きなかぶを、登場人物が次々と加わりながら力を合わせて抜くという展開を、描き出したロシアの民話である。栽培、協力、収穫といった喜びにあふれたこの物語は、児童が自分たちの生活経験と重ねながら豊かに読み進めていけるものと考えられる。

物語は6つの場面から構成され、場面の様子を豊かに想像することのできる挿絵も効果的に配置されている。そのため、児童を作品の中の人物に同化させ、挿絵と叙述をつないで様子や思いを想像豊かに膨らませていくことができる。また、場面が進むごとに1人ずつ加わってかぶを引っ張るというはっきりとした展開は、音読や動作化にも適しており、事柄の順序を丁寧におさえることができる。表現上の特徴としては、リズムカルな繰り返しが多用されていることが挙げられ、児童にとって親しみやすく、動作化を取り入れて楽しく音読することができる。また、「けれども」「それでも」「やっぱり」「まだまだ」「なかなか」「とうとう」という言葉の変化に着目することによって、登場人物の気持ちの変化をとらえながら、読み進めることができると考える。

このように、本教材は、この時期の児童が、物語の世界を楽しく読み味わいながら、読み方の基礎・基本を丁寧に身に付けていくのに適している教材であるといえる。

○ 読みの基礎・基本を身に付けさせるための指導のあり方

本単元の指導、支援にあたっては次のような手立てをとる。

まず、第1時では、児童が「早くお話を全部読みたい。」と思えるような読みのめあてをつくる。はじめに題名に着目させ、どれぐらい大きなかぶなのか、どうして大きくなったのか等、児童の疑問を引き出す。その上で、冒頭の部分と挿絵を提示し、おじいさんが言った繰り返しの言葉や種のまき方に着目させ、児童の生活経験と重ねながら、おじいさんが心を込めて大きなかぶを育てたということに気付かせていく。そして、ここまでして育てたのにおじいさんが抜こうとしても抜けないほど大き

なかぶになったことをとらえ、これからどうやって抜くのかを知りたい、詳しく読みたいという思いを生かして全文を読み通すめあてをもたせていきたい。

次に、読みのめあてをもとに全文を読み通し、どうやって抜いたのか人物の行動に着目して、読みの答えをまとめていく。そして、人物の言動への疑問をもとに学習計画を立て、各場面ごとの人物の様子とおじいさんの思いを読み深めていく。具体的には、登場人物の助けを呼びに行ったときのやり取りと、みんなでかぶを引っ張る様子を中心に読み深め、場面の最後のおじいさんに自分を重ねて思っていることをまとめさせる。各場面とも同じ文章構成になっているので、同一展開による読み深めを毎時間繰り返すことで、児童に行間を読み広げて人物の思っていることや考えていることを読み深める基礎的な技能を身に付けさせたい。

読みのまとめでは、場面ごとに読み深めてきたこととつないで、「大きなかぶのつづきのおはなしをつくろう。」という活動を設定する。みんなで力を合わせてついに抜けた大きなかぶを前に、各登場人物はどんなことを話したのか、何をしたのかを想像させ、本単元のまとめとしたい。

3 単元目標 (○価値目標 ●技能目標)

- 引き手を一人ずつ増やしながらかぶを抜くことができるまでの展開をとらえ、力を合わせて一生懸命に頑張ることのよさや楽しさを読み取ることができる。
- 挿絵や人物の言動とつないで行間に立ち止まり人物が思っていることを想像を広げながら読み取ったり、一人ずつ増えていく人物設定や結論につながる言葉に着目して事柄の順序を考えながら内容の大体を読み取ったりすることができる。
 - ・ 挿絵と叙述をつないで場面の様子を読む。
 - ・ 結論につながる言葉に着目して読む。

4 指導計画 (全8時間)

配時	学習内容および活動	教師の支援
1	<p>1 題名、冒頭、挿絵をつないで、分かることや知りたいことを話し合い、読みのめあてをつくる。</p> <p>(1) 題名「大きなかぶ」をもとに話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どれくらい大きいのかな。 ・ どうして大きくなったのかな。 ・ だれがお世話したのかな。 <p>(2) 題名とつないで冒頭、挿絵からわかることを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ おじいさんの背より大きなかぶだな。 ・ おじいさんが大切にお世話したんだね。 ・ どうやってかぶを抜くのかな。 <p>(3) 読みのめあてをつくる。</p> <p>読みのめあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> おじいさんはどうやって大きなかぶをぬくのかな。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ より具体的に想像することができるよう、児童が生活科で育てているアサガオの世話を想起させ、比較させる。 ○ 繰り返しの表現や、一粒一粒大事そうに種をまいている挿絵の様子に着目させ、おじいさんがかぶを大切に育てた様子を詳しく読み取ることができるようにする。 ○ 抜けなかったことをもとに、おじいさんのこれからの行動に着目させる。
1	<p>2 全文を読み、読みのめあての答えを考え話し合う。</p> <p>(1) 読みのめあての答えを考えながら全文を読む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 誰が誰を呼んでくるのかを書き込

	<p>(2) 読みのめあての答えを考え、話し合う。 読みのめあての答えの方向</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>おじいさんは、おばあさんとまごと犬とねことねずみと一緒に力を合わせて大きなかぶを抜いた。</p> </div> <p>(3) 人物の言動への疑問をもとに、読み深める計画を立てる。</p>	<p>める読み取りノートを工夫し、話の順序をおさえることができるようにする。</p> <p>○ 次時から、読みのめあてをもとに、場面ごとに詳しく読み深めていくことを知らせる。</p>
5	<p>3 場面ごとに読み深める。</p> <p>① (1) おじいさんがおばあさんを呼びに行き、2人で一緒にかぶを引っ張る場面を読み深める。</p> <p>① (2) おばあさんがまごを呼びに行き、3人で一緒にかぶを引っ張る場面を読み深める。</p> <p>① (3) まごが犬を呼びに行き、4人で一緒にかぶを引っ張る場面を読み深める。</p> <p>① (4) 犬がねこを呼びに行き、5人で一緒にかぶを引っ張る場面を読み深める。</p> <p>本時</p> <p>① (5) ねこがねずみを呼びに行き、6人で一緒にかぶを引っ張る場面を読み深める。</p>	<p>○ 児童を物語の場に誘うため、登場人物のお面、大きなかぶの模型を用意する。</p> <p>○ 各場面、児童が助けを呼びに行く役、教師が呼ばれる役となって役割演技をすることで、児童が行間を詳しく想像することができるようにする。</p> <p>○ 各場面、かぶを引っ張る様子を動作化させ、登場人物の置かれている場へ誘う。</p> <p>○ 読み深めたことを、おじいさんになって考えていることを吹き出しに書きまとめさせる。</p>
1	<p>4 読みのまとめをする。</p> <p>(1) よみの答えと読み深めたことを振り返る。</p> <p>(2) かぶが抜けた後の、続きの話を考える。</p>	<p>○ 児童が続きの話を考えやすいように、かぶが抜けた場面の挿絵と今までの挿絵の人物の表情を比べさせ、人物の喜びの気持ちを想像させる。</p>

5 本時

平成18年9月20日(木) 教室にて

6 本時の目標 (○ 価値目標 ● 技能目標)

- おじいさん、おばあさん、まご、犬、ねこの5人で一生懸命にかぶを引っ張ってもかぶが抜けない場面の様子とおじいさんの思いを読み取ることができる。
- 挿絵や叙述をもとにした犬とねこの役割演技を通して人物の思っていることを想像したり、動作化を通して内容の大体を読み取ったりすることができる。

7 本時指導の考え方

児童は前時まで、学習計画をもとに、おじいさんが大きなかぶを抜くまでの様子を場面ごとに詳しく読み深めてきた。その中で、人物の様子を動作化したり、「うんとこしょ、どっこいしょ」の読み方を考えたりしながら、行間を読み深めたり、叙述とつないで人物の思っていることを想像したりする、読みの基礎的な技能を身に付ける学習を繰り返してきている。

本時の場面は、おじいさん、おばあさん、まご、犬、ねこが力を合わせて大きなかぶを引っ張る場面である。そこで、本時の指導にあたっては、前時までの読み方を活かしながら、ねこが加わってもなおかぶが抜けない様子とおじいさんの思いを、挿絵を叙述をつなぎながら、詳しく読み深めていく

こととする。

まず、前時場面のかぶが抜けなかったおじいさんの様子をつないで、犬がねこにどのような話をし
て助けを求めたのかを考えさせる。児童が物語の中に入り、犬とねこの会話をじっくり思い描けるよ
う、はじめに読み取りノートの吹き出しに書きまとめさせる。吹き出しに書きまとめた後、教師がね
この役をし、呼びに来る犬役の児童に、前時までに取り取ってきた「おじいさんがかぶを一生懸命育
てたこと」、「どれほどかぶが大きいのか」、「4人で力を合わせて一緒に引っ張ったこと」の3点につ
いて問い返しなが、それまでの展開を順序よくとらえるよう導いていく。そして、なぜかぶを抜く
のにねこの助けが必要なのか、場面の状況や人物の思いを豊かに想像させたい。

次に、5人でかぶを引っ張るときの様子を叙述をもとに考えさせる。挿絵をよく見て、かぶの上に
座り込んで頭を抱えているおじいさんの困り果てている様子をふまえた上で、おじいさん役、おばあ
さん役、まご役、犬役、ねこ役の子どもを決める。そして、みんなで息を合わせ、声をそろえて「う
んとこしょ、どっこいしょ。」と掛け声を掛け合いながらかぶを力いっぱい引っ張る様子を動作化を
通してとらえさせたい。

さらに、動作化の後、本時で詳しく読み深めたことを書きまとめさせる。おじいさんの吹き出しに、
またしてもかぶが抜けなかったおじいさんの気持ちになって書かせるようにする。その際「おじいさ
んは、誰とどうやってかぶを引っ張ったのか。」「かぶが抜けなくて、おじいさんはこれからどうしよ
うと思っているのか」の二つの観点からまとめることができるようにする。

最後に、本時場面を音読する。本時で読み取ったことを振り返りながら「うんとこしょ、どっこい
しょ。」や「なかなか」などの読み方に注意して読ませ、本時の学習のまとめとしたい。

<検証の視点>

- 挿絵から人物の様子を読み取る。
- 人物の言動をつないで、行間を読み広げる。(物語の展開にそって助けを求める内容を考えてやり取りをすることができる。)
- 読み取ったことを活かして、音読することができる。

8 本時の展開 (6/8)

	学習活動と内容	教師の支援
	<p>1 前時の学習をふり返り、本時の学習内容を確認する。</p> <p>(1) 前時場面で読み深めたことと本時場面の挿絵をつないでおじいさんの気持ちを想起し、本時のめあてをつかむ。</p> <p><めあて></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>おじいさんが、おばあさんとまごと犬とねこの5人で、かぶをひっぱるようすをくわしくよもう。</p> </div> <p>(2) 本時場面を音読する。</p> <p>① 教師の範読を聞く。</p> <p>② 全員で声を合わせて音読をする。</p> <p>2 犬がねこを呼びに行くやり取りの様子を役割演技を通して考え、犬の思っていることについての想像を広げる。</p>	<p>○ 前時の学習の最後に書いたおじいさんの思っていることについての吹き出しの内容を数名分紹介する。</p>

<p>(1) ねこを呼びに行く犬の気持ちを考えて吹き出しに書く。</p> <ul style="list-style-type: none">・ おじいさんとおばあさんとまごとぼくでもぬけないくらい大きいかぶなんだ。・ ねこさんがてつだってくれたらぬけるかもしれない。 <p>(2) 児童が犬役に扮し、ねこ役の教師とやり取りをする。</p> <p>3 かぶを引っ張る様子を動作化を通して考え、おじいさんの気持ちを考える。</p> <p>(1) おじいさん、おばあさん、まご、犬、ねこの5人でかぶを引っ張る様子を考え、動作化する。</p> <ul style="list-style-type: none">・ ねこは犬のしっぽのところをもっているよ。・ 手や足を踏ん張って、引っ張っているみたい。 <p>(2) かぶが抜けなかったおじいさんの気持ちを吹き出しに書く。</p> <ul style="list-style-type: none">・ おばあさんとまごと犬とねこと5人で、力を合わせて一生懸命かぶを引っ張ったけど、どうしても抜けなかったよ。・ 困ったな、次は誰を呼んでみようかな。かぶはちゃんと抜けるのかな。 <p>4 学習のまとめをし、次時の予告を聞く。</p> <p>(1) 本時場面を音読をする。</p> <p>(2) 次時は、最後の場面を読み深めることを知る。</p>	<p>○ 教師がねこの役をして、「おじいさんが一生懸命育てたこと」、「どれほど大きなかぶなのか」、「4人で一緒に引っ張ったこと」の3点について問い返し、今までの展開を順序よくとらえられるよう導く。</p> <p>○ 5人でかぶを引っ張る様子を動作化させ、引っ張り方や気持ちを1つにして頑張っている様子をとらえることができるようにする。</p> <p>○ おじいさんの吹き出しを作り、「おじいさんは、誰とどうやってかぶをひっぱったのか。」「かぶが抜けなくて、おじいさんはこれからどうしようと思っているのか。」の2つの観点からまとめることができるようにする。</p> <p>○ 本時に読み深めたことを振り返り「うんとこしょ、どっこいしょ。」や「なかなか」等、工夫して読むことができるようにする。</p>
---	---